



# コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



出石城跡・西の郭での舞書パフォーマンス



KEIKO\*萬桂の世界展の様子



ライブで描いた「昨日の月」の前で

**宇宙、自然を感じながら生まれる舞書**  
見る人々の魂を揺さぶる

曾祖父の出身地「出石」で個展を開催中の元気な女性を紹介します。

KEIKO\*萬桂さん(本名・植村桂子)泉州

秋の夜。ピンと張り詰めた空気の中、天から魂を吹き込まれたかのように、一人の女性が和紙の上を舞う…。

## 舞書パフォーマンス

豊岡市出身で、鳥取県岩美町を拠点に活動するアーティスト KEIKO\*萬桂さんの企画展「KEIKO\*萬桂の世界展(12月11日(火)まで)」を、伊藤清永美術館(出石町内町)で開催しています。

これに先立ち、11月2日の夜、出石城跡の西の郭、かがり火が照らす特設ステージで、萬桂さんは特大の因州和紙に踊るように描く「舞書」と呼ぶライブパフォーマンスを披露。萬桂さんと流れる音楽、場の空気が醸し出す独特の世界に、来場者は息をのみました。

作品『昨日の月』を仕上げた萬桂さんは「曾祖父の故郷の出石で舞書ができて光栄。皆さんと時間、空間を共有して一体になれた」と話します。

## 曾祖父の感性を受け継ぐ…

豊岡で生まれた萬桂さんは、幼少のころから祖父母や母から書道を学びました。高校卒業後に上京。大学では染色デザインを専攻し、卒業後はテ

キスタイルデザイナーとして活動します。小泉今日子など著名人のドレスをデザインし、雑誌「明星」などにも掲載された話題に。平成14年には「日本アートアカデミー賞」をはじめ、数々の賞を受賞しました。平成15年にパリで個展を開催し、ここで初めてライブパフォーマンスを披露。これが今の「舞書」の原点となります。

曾祖父は、但馬における鳥派俳句の始祖といわれた植村萬頃(1873~1925)。作家名の「萬桂」は、その雅号を受け継いでいます。

萬桂さんは「初めて曾祖父の俳画を見たとき、自分と共通しているものに触れた感覚を受けた。曾祖父は、自然の中で感じたものを俳句・俳画にしており、私の中にもその感性が流れていると感じた」と話します。

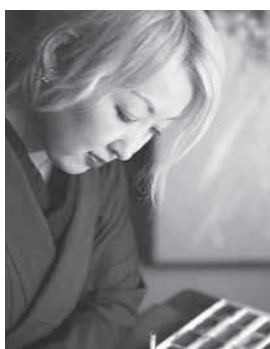
## 自然から感じたものを表現

萬桂さんの作品は、墨を基調にしてパステルやカラースプレー、砂などで抽象表現したもので、最近では金屏風や大判の手漉き和紙などに描かれています。墨を溶く水には、山奥から湧き出る霊水などを

使用しています。

「アトリエでは夜、月や波を感じながら、書きたい衝動が高まるまでひたすら待ち続け、インスピレーションを感じたときに一気に描き上げる。ライブでは、いろんな出会いの中で特別な場所、特別な瞬間に感じたものを描く。祈り、自分を追い込み、爆発させる。自分が自分ではなく、何かに突き動かされて描いている感じ。そうして会場と一体になり作品を生み出す」と作品作りの魅力を語ります。

今回の企画展には、ライブで描いた「昨日の月」のほか、因州和紙に描いた「誰そかれ」、新作の屏風「久遠」などを展示。和紙に描いた作品は、ライトで照らされて行灯のように浮かび上がり、幻想的な非日常空間を生み出しています。皆さんも、神秘の世界に足を踏み入れてみませんか。



▲趣味はガーデニング

# 日高東中学校(日高)

案内者 稲垣誉大くん・松本 慧く  
ん・中川 咲さん(3年3組)・琴川  
さくらさん(3年2組)・(左から)



日高東中学校の在校生は354人で、生徒会のスローガンに「THE SKY IS THE LIMIT」(可能性は無限だ!)を掲げています。

同校生徒会長の松本 慧くんは野球部、副会長の中川 咲さんは女子ソフトボール部、書記長の琴川さくらさんは吹奏楽部、書記次長の稲垣誉大くんは剣道部に所属していました。

部活動について聞くと、松本くんは「みんなで力を合わせて試合に勝ったときはうれしかった」、中川さんは「先輩たちには、但馬大会で上位に入り、県大会に出場してほしい」、琴川さんは「コンクールに向けて、同じ曲の練習はつ

らかったですが、本番で息の合った演奏ができてうれしかった」、稲垣くんは「試合では声を出さないと1本取っても声を出さないので、普段の練習から声を出すようにしていました」と話します。

今回は、4人に日高東中学校を紹介してもらいました。\*\*\*\*

特徴ある取組みとして、「東中祭」があります。「東中祭」には、体育祭と文化祭があり、3年生が中心となって、盛り上げ、行事をとおしてクラス、学年、学校の団結力を養います。「ボランティア活動」では、夏休みに福祉施設を訪問し、草取りなどの奉仕作業や交流会を行います。交流会では、吹奏楽部がその日のために練習してきた曲を演奏します。おじいちゃん、おばあちゃん

に喜んでもらうとうれしいです。

また、地域の一人暮らしのおじいちゃん、おばあちゃんに手書きの招待状を送り、体育祭に参加していただき、交流を深めています。

今回初めて、阪神・淡路大震災の復興シンボル「はるかのひまわり」の苗を学校で育て、37の区で植付けをしました。とても見事な花が咲きました。



▲ヒマワリの苗を植える生徒

エコキャップ運動では、校内に回収箱を設置してペットボトルキャップを回収し、集めたものを関係団体に送り、ワケチン購入に役立ててもらいます。そのほかにも、「あいさつ運動」や「1分前着席」などに取り組み、習慣化しています。

日高東中学校は、行事ごとに、生徒会だけでなく、3年生が中心となってリーダーシップを発揮し、全体をうまくまとめられています。こうした良い伝統を後輩たちにも受け継いでいってほしいです。

## 顔輪 笑の

### 谷山川を育む会(出石)

いつでも、誰でも、誰でも、できる範囲で、楽しんで…

出石市街地の中心を流れる「谷山川」。この川には、絶滅危惧種に指定されている「ミズアオイ」や、「ミクリ」などの希少植物が生息しています。

「谷山川を育む会」は、この美しい川の維持管理と、活用を目的に平成19年5月発足。現在、約20人で活動しています。会長の足田茂樹さん(出石町東條)は「この谷山川を『まちな顔』として育てていくため、県と市、地域住民が協力して『谷山川共生プラン』を策定。育む会では、平成23年のプラン完成まで、さまざまな取組みを進めてきた」と振り返ります。



▲10月10日の清掃活動の様子

谷山川は、かつて現在の3倍の川幅があり、年貢米輸送など川舟交通路として利用さ

れていました。旧船着き場周辺の川沿い約300メートルは、県が親水公園として整備。道路からの降り口や、川岸の散策路、両岸を結ぶ「八つ橋」を設置し、船着き場風のデッキや歴史を説明するイラスト付きの案内板も護岸にはめ込みました。子どもたちは、この親水公園を「おりゅうじゃぶじゃぶ公園」と名付け、川遊びを楽しんでいます。育む会では、会員外にも声を掛け「谷山川まもり隊」を結成し、毎月10日に川の清掃活動を行っています。また、年4回「谷山川ニュース」を発行し、取組みをPRしています。足田会長は「子どもからお年寄りまで自由に親しめる川にしたい。ごみ拾いをしていく姿を見てみんなの意識が高まれば」と話していました。